

肝炎患者・肝炎ウイルス感染者と人権



厚生労働省肝炎総合対策キャラクター

ウイルス性肝炎とは??

ウイルス性肝炎とは、肝炎ウイルス（B型・C型）に感染し、肝臓の細胞が壊れていく病気です。この病気になると、徐々に肝臓の機能が失われていき、ついには肝硬変や肝がんに至ることもあります。B型及びC型肝炎ウイルスの患者・感染者は、合わせて300万人を超していると推定され、国内最大の感染症とも言われています。

日常生活では、感染はしません!

肝炎患者や肝炎ウイルス感染者の方と、「一緒に食事をする」、「会話をする」、「握手をする」、「隣に座る」などの日常生活では、感染することはありません。

現在の主な感染経路は、性行為、入れ墨やピアスの穴あけ、注射器の共用及び肝炎ウイルス陽性の血液を傷のある手で触ったり、針刺し事故によるものです。

肝炎に対する正しい理解を

肝炎患者や肝炎ウイルス感染者の方は、差別や偏見に対する不安などの様々な思いを抱え、生活しています。私たちに必要なことは、正しい知識をもって、不当な差別や偏見を解消していくことです。

当事者からのメッセージ

ウイルス性肝炎というと、まず「お酒の飲みすぎでしょ」と言われます。医師から「何か悪い遊びをしたんじゃないの?」と疑いの目で見られた人もいます。うつったら困るからと解雇された人もいます。これらは、すべて根拠のないもので、患者は、発がんへの不安や治療の苦しみに加え、偏見や差別にもさらされています。

日本で、ウイルス性肝炎が蔓延した一番の原因は、過去に、病院や集団予防接種で、滅菌されていない注射器が複数の患者に使い回されたためです。お酒と直接の関係はなく、誰が感染していても不思議ではありません。

偏見や差別は、患者を苦しめるだけでなく、その人自身が、自分には関係ないと思い込み、早期発見・早期治療が遅れることにつながります。

肝炎治療はめざましく進歩し、飲み薬だけで、費用も安く治せる時代になりました。

もし、あなたが、まだ検査を受けていなかったら一日も早く受けてください。血液検査だけで、今後のあなたの人生が救われるかもしれません。

島根県肝臓友の会 S.Yさん

肝炎ウイルス検査を受けたことがない方は、検査を受けましょう。

県の委託医療機関や保健所で受けることができます。詳細は、最寄りの保健所にお問い合わせください。

【問い合わせ先】 島根県薬事衛生課 感染症グループ：TEL 0852-22-6532

知ってください「ヘルプマーク」「ヘルプカード」

「ヘルプマーク」「ヘルプカード」とは?.....

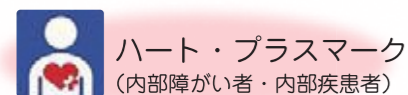
義足や人工関節を使用している方、内部障がいの方、難病の方など、援助や配慮を必要としていることが外見からは分からない方がいます。

そのため、周囲の方に配慮を必要としていることを知らせ、援助を得やすくするために身につける「ヘルプマーク」「ヘルプカード」の普及に取り組んでいます。

「ヘルプマーク」「ヘルプカード」を見かけた時は.....

- 公共交通機関では、席をお譲りください。
- 災害時には安全に避難するための支援をお願いします。
- 困っているとき声をかける等思いやりのある行動をお願いします。

※他にも、周囲の方に配慮を必要としていることを知らせるためのマークがあります。



ハート・プラスマーク
(内部障がい者・内部疾患患者)



SOSカード
(パーキンソン病患者)



ヘルプマーク
・かばん等に装着し、周囲に配慮を必要としていることを知らせることができます。
・市町村や県の窓口で交付しています。



ヘルプカード
・必要な配慮の内容を相手に知らせることができます。
(例：アレルギーの内容)
・県ホームページからダウンロードできます。

【問い合わせ先】 島根県障がい福祉課：TEL 0852-22-6685 FAX 0852-22-6687

開催報告

しまね人権フェスティバル2017

同時開催 平成29年度人権・同和問題を考える県民のつどい

10月15日(日) 安来市の安来市総合文化ホール アルテピアで「しまね人権フェスティバル2017」を開催しました。

ステージでは、地元出演者によるハンドベル演奏やどじょうすくい踊りの上演、中学生の作文発表等を行いました。また、同時開催の安来市人権フェスティバル「つなげて未来やブース」をはじめ、28ブースの出展(店)があり、ワークショップや啓発展示などを行いました。このほか、シンガーソングライター六子さんへの1日人権擁護委員委嘱式や人権啓発ポスターコンクール表彰式と作品展、六子さんのミニライブやよしと-tukuru-さんの紙芝居パフォーマンスなどもあり、家族連れなどでにぎわいました。また、安来高校と情報科学高校の生徒のみなさんには、ボランティアとして協力していただきました。

同時開催の「人権・同和問題を考える県民のつどい」では、作家で小説「あん」の作者ドリアン助川さんに「私たちはなぜ生まれてきたのか?小説「あん」でハンセン病快復者の人生を描いた意味」と題して講演していただきました。聴講された方からは、「生きる意味」=「社会の役に立つではない」、存在自体が尊いという認識が大事と感じた。」「自分発で物事を考え、行動を起こしたいと思った」などの感想が寄せられました。

当日は悪天候にもかかわらず約830名の方にご来場いただき、身近な人権問題について、気づき・学び・考える場となりました。



梨の木園 ハンドベル演奏



ドリアン助川さん 講演



切川保育所のこどもたちのどじょうすくい踊り



ワークショップの様子 島根県観光キャラクター「しまねっこ」(島根連許第4906号)



1日人権擁護委員として活動する六子さん、人権イメージキャラクターKEN まもる君とKEN あゆみちゃんたち



小ホールイベント よしと-tukuru- 紙芝居

お知らせ 平成30年度は江津市で開催します

- 開催日 / 平成30年10月21日(日)
- 会場 / 江津市総合市民センター (ミルキーウェイホール)

平成29年度 人権教育・啓発功労者 知事感謝状の贈呈

島根県では、人権教育や人権啓発に関して特に顕著な功績のあった個人及び団体に対して知事感謝状を贈呈しています。

平成29年度は、竹内 正さん(江津市)と法被の会(出雲市)に、しまね人権フェスティバル2017の会場において、犬丸環境生活部長から感謝状を贈りました。

贈呈式の後、受賞者の方にこれまで取り組んでこられた活動について紹介していただきました。

* 知事感謝状を贈られた方々の主な功績 *

名称	活動年数	主な功績内容
【個人】 竹内 正さん 江津市	11年	「竹細工づくり」を通して、生業として生活を支えてきた歴史や先人の苦節と誇りを肌で感じ考えることで、実践的な人権・同和教育の学び舎としての役割を果たしている。同時に辛い状況の中でも支え合い、たくましく生きる力を市内外の子どもたちをはじめ、たくさんの人たちに伝えている。
【団体】 はっぴ かい 法被の会 出雲市	11年	同和問題の解決を軸に「性的少数者の人権」「アイヌの人々」などの様々な人権課題について、住民啓発に取り組んでいる。同和問題については、その歴史、ホルモンなどの食文化、と畜産業とのつながりや現在の問題など、様々な視点から捉えた講座を開催している。